

教職大学院 NEWS

Vol.29

2020.10月発行

三重大学大学院教育学研究科
教職実践高度化専攻

教職大学院修了生たちの今

三重大学に教職大学院ができて4年目となります。これまでに1期生、2期生が大学院での学びを終えて、在籍した学校へ戻ったり、新任教員となったり、あるいは教育行政という新たな環境へ入ったり、とそれぞれの場で活躍しています。今年3月に終了した2期生は、コロナ禍という新たな課題に直面しつつも、約半年を子どもたちや同僚の先生方と過ごしてきました。大学院での学びは、彼らの教育活動にどのような生かされているのでしょうか。2期生だった3人の先生方の声をお届けします。



教職大学院での2年間を終え、学校現場に戻り、半年が経ちました。今年度は、学年主任と研究主任を担当しています。担任する学級がないことに寂しさも感じますが、新たな視点で子どもたちや教師集団をみる機会を与えていただいていると考え、日々勤しんでいます。

4月当初より、新型コロナウイルス感染症対策として、例年通りでは進められない場面が多くなりました。「子どもたちの学びを保障するために私たちは何ができるか」と考える時、教職大学院で様々な教育課題について分析・検討した場面が思い浮かびました。問題解決において「意味を問い直す」「根拠を確かめる」「様々な考え方や方法があることを理解し、それらを統合する、選択する」といったことを考えるようになりました。このような自分の考え方の軸を身につけられたことが、教職大学院での私の一番の学びです。学びを学校現場に還元できるよう、これからも精進していきます。

松阪市立中部中学校 大浦 亜紀

教職大学院を修了し現場に戻り、今は5年生の学級担任として忙しい日々を送っています。教職大学院で学んだ2年間で現職の先生方やストレートマスターの方と意見を交わし教育について考えたことは、学校現場での職務に活かされていると感じています。

私は教職大学院で授業の見方や子どもの見方ということについて研究していました。現在も自分が授業を行う際は「この子はどのように理解しているのだろうか」「どこで躓いているのだろうか」というように子ども一人一人の学びを丁寧に見るように心掛けています。また、学級経営においても、子どもたちの個性を活かしたり長所を伸ばしたりできるように学級の子もたちと日々向き合っています。今後も教職大学院での学びを子どもたちへ還元したいと感じています。

鈴鹿市立長太小学校 田中 克哉

私は教職大学院修了後、中学校理科の新採教員として亀山市の公立中学校に勤めています。2年生の担任のほか、男子バレーボール部の顧問を担当しています。

多様な子どもたちがいるなかで授業をする難しさを実感することもあります。教職大学院で学んだキーワードの1つである「省察」を常に念頭を置きながら、よりよい授業ができるようになりたいと日々授業改善に取り組んでいます。

先日、担当する理科の授業で、ブタの肺を使った実験を取り入れました。“「実物」と子どもたちとをいかにめぐりあわせるか」ということを大切にしながら、これからも授業をしていきたいと考えています。

亀山市立亀山中学校 稲垣 知大

東紀州実習を終えて

教職大学院が始まって以来今年で4年目となる東紀州長期実習を9月下旬～10月上旬にかけて実施しました。この実習は「特色ある取組を進めている東紀州地域の学校教育活動から学ぶ」ことを目的としています。本年度は、学校経営力開発コース(現職教員学生)10人と教育実践力開発コース(学部新卒学生)3人を、尾鷲市教育委員会、熊野市教育委員会、御浜町教育委員会、三重県立木本高等学校のご理解ご支援をいただき、受け入れていただき、実習をおこないました。実習中は、大学院より指導教員も現地に赴いて、実習校を訪問して実習の様子を見せていただいたり、宿泊所の三重大学東紀州教育学舎を訪問したりしました。

実習校のみなさまには事前の受け入れ準備や環境の整備、実習期間中の実習生へのご支援及びご配慮等により、全員が無事に実習を終えることができました。また、宿泊に関して、三重大学東紀州教育学舎の先生方、スタッフのみなさまにも温かいご支援をいただきました。

院生は今回の実習を通して、多くのことを学び感じとって、今後の取組へのヒントを得たようです。また、同じ東紀州教育学舎に宿泊をし、夜に集まってリフレクションをしたり、情報の交換をしたこともとてもよかったと、宿泊についても好評でした。何よりも東紀州地域の皆さんの温かさやこの地域がもつ豊かさや地域の魅力そのものに、2週間という期間でしたが、触れることができたことは大収穫であったのだと思います。このように、大学院生にとって充実した実習とすることができましたのも、当該教育委員会、各実習校の皆様のお陰と深く感謝しています。院生は、11月26日に、東紀州実習の成果について報告する予定です。今回の実習で学んだことを、今後の学修に活かしていきます。



初めての中学校で不安な部分が大きかったのですが、生徒のステキな笑顔と挨拶、教職員の温かさのお陰で、2週間の実習を無事に終えることができました。2週間滞在させてもらったことで、人の温かさをまちの至るところで感じるようになりました。まち全体が子どもを育てているように思えました。管理職の先生からは、よりよい学校や教育になるために、探求心をもち、またみんなが働きやすい職場となるような気遣いをされていることが感じられました。先生方からは、言葉のキャッチボールで学びの空間を作ること、理想とする授業があったとしても、生徒に合わせた授業から主体性を育てること、そして叱るような指導ではなく、温かく見守る指導をみなさんが共通してされていたのを学ばせてもらうことができました。2週間本当にありがとうございました。

学校経営力開発コース 4期生 永合 本幸

東紀州サテライトの目の前にある木本高校で、2週間実習をさせていただけました。1年生が初めて受ける詩の授業で実践した創作活動では「自分の感受性くらい自分で守れ ばかものよ」(茨木のり子)という投げかけに対して、一人一人が綴る作品の自由さ・真剣さに打たれました。また、文化祭では感染防止の制約下でも知恵を絞って主体的に楽しみ尽くす姿が眩しく「自分も生徒のこんな輝きを見守り助ける教師になりたい」と強く思いました。毎日の授業に行事、夜更けに山で響く鹿の声、どの体験も大切に心に刻んで自分の力にしていきたいです。

教育実践力開発コース 3期生 前葉 愛理

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 広報担当

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教職大学院ウェブサイト <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>